

刻む会

たより

No.36

2008.7.1

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局 宇部市常盤町一の一の九 宇部緑橋教会内

TEL 0836(21)8003

17回目の追悼式に随行して

事務局 井上善兼

梅雨に入ったかなあとという今日この頃です。梅雨が明けたら私たちの会の恒例行事である、夏のフィールドワークです。今年も、2月1日(金)～3日(日)の日程で犠牲者の遺族を招いての追悼式及び関連行事を行いました。会の発足から関わってきた私が17年目にして改めて思うことは、年数回しか会報を出せない私たちの運動の非力さです。半年もたとうとしている今、記憶をたどりながら報告をしなければならぬという現状をふまえつつ、随行記を記します。

昨年は、事故当時に働いておられた2人の生存者の存在が、韓国政府の真相究明委員会の方々のご努力でわかり、この2人を

招いて、また、韓国の政府機関、マスコミ、出版関係者なども多数同行され、その上、フェリーの切符の予約の関係もあつて滞在期間が五日間であつたことなど、何かとインパクトのあるとりくみであつたという思い出があります。

しかし、「来年また伺います」と言つていた2人の生存者も、金さんからお身体の事情で「回復してから訪問します」という事前のお手紙が届いており、生存者や遺族、会のメンバーの高齢化が進んでいる中で、『何をもたもたしているん』、という複雑な思いで関釜フェリーの待合所に遺族を出迎えにいきました。

金会長、ヤン副会長、全さんなどいつもどおりの顔ぶれを見てほつとし、今年はある人は来てないな等思ひめぐらせているうちに初めて訪日された方々に接し、「今年も頑張ろう」という勇気をいただきました。

中心にレポートしてみたいと思います。

ひとつは、宇部市を訪問したとき、初めて来日されたご遺族から、「フェリーを降りたら方という人たちの歓迎の迎えがあると思つて来たが、待合所にいたのはただか10人たらずですが、つかりした」という声が出たことです。17年もたつて、何も進展してない事は、百も承知の上で来日されたことは



想像できますが、宇部市のあまりにも冷たい対応に対する嘆きと私たちの会への失望をないまぜにした声であったと思います。また、宇部市では、遺族から口々に「慰霊碑の建立にどれほどの金がかかるというのか」という指弾の聲が発せられたことが、私の耳につきささっています。毎年、県庁と宇部市を訪問し、慰霊碑の建立を軸とした会の目的と遺族の願いを要請しつづけてきましたが、県は宇部市、宇部市は県を棚に上げてのなすりつけ、今年は、ついさきほど、山口県の「土地取得の件」と特定した上で、「宇部市と協議していく」という回答をもらったばかりの宇部市訪問でした。

ふたつには、追悼式を終えた後の市民交流集会で、会の中心メンバーである澄田夫人から「毎年同じ事をやってきたが運動は先細りするばかりで、何も責任がとれないのなら、いっそ会を解散したほうがよいのでは」という思いにかられる」というご意見があったことです。夫人の思いは『この現状を何とかしなければ』という叫びであると私は思いました。この会を起ちあげた山

口先生、会の重鎮であるべ長老、島先生、澄田牧師らもご高齢にいたり、ここ数年、いまだに何の光も見えない現状に対する苛立ちのようなものが会の中に漂ってきていることは、私も気づいていました。私は、いつもは、遺族の送迎担当のドライバーの役に徹して来ましたが、会の中でもあまり意見を出して来たことはありませんが、今年の市民交流集会ではじめて、私がパスポートを取得するにいたった事情を含めて意見を述べました。というのは、会の中にあるこのような苛立ちを今年こそはなんとか



ふつきらねばならないという思いあまつての発言でした。毎年、遺族の送迎をやつてきましたが、会う喜びより

も、別れの悲しさが募るばかりです。二年前の別れの際に、親しい遺族から「私たちは招聘に応じて、毎年やってきているが、今度はあなたも韓国に来てください」と気楽に遊びに来てくださいというニュアンスで言われ、「必ず伺います」と約束しました。会のスタッフの一員で、韓国で遺族と交流した事のある妻洋子がいるからとたやすく約束したものの、長野県に在住する洋子の父が他界し、その後体調をくずした母の介護などもあって約束が果たせなくて昨年は、遺族に会わず顔もありませんでした。今年は、除夜の鐘を聞きながら、パスポートを取らねばことは前に進まないと意を決して取得したことで、今年こそ訪韓することなどを話したままでですが、私の発言が物議をかもすことになるとは思っていませんでした。

別れの関釜フェリーでヤン副会長から「韓国遺族会の定例会の時期を早めて五月に臨時総会を開きたい」と韓国遺族会としての受け入れるとの発言がありました。どうも、私の発言が、「今度は会として韓国を訪問したい」という会の公式の見解と誤解

されたのでしよう。言葉の壁は厚いもので、韓国遺族会から五月臨時総会への招請状が届いたらどう対応したものかと思いつつ、未だに便りが無いのは、私の個人的思いであることをやっとな理解していただけたのだろうと胸をなでおろしているところです。

今年の市民交流集会は、例年と違って、方向性は見いだせていないものの、今後の私たちのあり方を本音で語り合うという場であったという意味で私は良かったと思っています。いつもは、福岡や広島の間がこぞって参加してくれ、「私たちはこのように頑張ってきた」という激励をいただくばかりの集会になりがちでした。私は各地の闘いに学ぶということでは何の異論もありませんが、もっと本音をぶつけあう場もあってほしいという個人的感情を持ち続けてきました。交流集会では、土地取得のために行動にうって出よう、資金カンパという具体的行動にうって出ようという方向で何とかまとまることができたのではないかと思っています。

私が気づいた二つの事を上げましたが、話は前後しますが、今年初めて会った2家族の事を紹介しなければなりません。宇部市で発言されたAさんはご家族3人で来られました。同行しているうちに分かったことですが、刻む会の経済事情を察して下さり会からは招聘経費は一人分しか受け取らず、残り二人分は家族で行くのだからと自費で訪日されたそうです。また、Bさんは、福山市で韓国の食料品の卸業を営んでいる身内に連絡をとっていたらしく、福山市のご家族3人が追悼式に來られました。追悼式のあと、すぐさま「今までこの様な出来事すら知らず、まして妻のお爺さんの弟さんが犠牲になっていた事すら昨年まで知らず恥ずかしい限りです、しかし日本の方々の温かいご支援のもとで18年間も追悼式が行われたことに感謝の気持ちで一杯です。これからは、私達も何かお手伝いさせて頂きますので遠慮なく言ってください」というお礼の手紙がとどきました。

もう一組は、若い兄妹の2人です。事務局長のソン・ボンス氏の子どもさんと聞き、月日の流れに万感がこみあげてきました。

2人の話によれば、子どもの頃、家族で追悼式に來たそうで、「そのときは何の感情もなかった」と聞きました。ソン・ボンス氏とは2、3前に、10数年ぶりに再会しましたが、ご家族で來日された記憶は私にはありません。たぶん私が阪神大震災のあと、大阪に2年間出向していたときの事でしょう。お母さんが乳癌で最近亡くなられたそうで、家族を代表して來日した事情聞きました。

ソン・ボンス氏が20代半ばで初來日し、慰霊祭でピアにむかつて、慟哭の思いをこめて弔辞を謳いあげたことは昨日のことのように私の目にやきついています。追悼式に参加される予定であったお父さんの代理として、孫としての來日でした。今年は、父を受け継いで3世が立派にその大役を果たしました。

しりすばみしている現実はありませんが、ここ数年事務局の一員に加われた東村さんの奥さんが県庁に向かうバスでの通訳を引き受けて下さいました。韓国の風習にみならって、娘さんの結婚を目前にして追悼式の関連行事への参加を控えられていたことを後に伺いました。本当にありがとうございました。

いました。いろんな意味で今年は、前向きで行動して行こうという再出発の第一歩となった慰霊祭ではなかったかと思えます。最後に、その後、会で話し合ってきたこと、近況などを紹介して私の報告にかえたいと思います。一つは、具体的に入って行く上で、会の目的の内の慰霊碑の建立という一大事業については、在日2団体を含めた幅広い母体をつくる、その呼びかけ及び設立趣意書は会が責任をとる。二つには、母体を設立してからカンパ活動に入るという待ちの姿勢ではなく、今すぐでも準備資金が必要であり、カンパ活動は開始しようと言うことで5月5日の宇部祭りでも街頭カンパをやりました。募金はたったの1536円でしたが、集まった金額よりも、カンパを呼びかける試作品のカラー刷りのピラを何とか完成させ、小雨が降る中であつた間に、市民の皆さんが受け取って下さったことです。5月の定例会に日本キリスト教団宇部教会にあらたに着任された徳松牧師が事務局会議にはじめて参加されました。その場で、何の予備知識もない彼から、会報よりこのピラのほうがわかりやすいとほ

雨の中、宇部まつりで街頭カンパを
がんばりました



めていただきました。澄田牧師、陣内牧師が転任されてから、緑橋教会で事務局を一手にひきうけてこられた戸井牧師が美祿教会に転任されました。本当にご苦労さまでした。落ち着いたら事務局会議にもまた参加されるそうです。

この会報が皆様お手元に届く頃には、趣意書が完成し私たちの運動が躍動し始めていることを願ってやみません。皆さん、本当にお疲れ様でした。これから、いや今年を転機として頑張ってください。

※引き続きカンパをお願いします！

2008年度遺族招聘費用の会計報告			
遺族招聘カンパ (108口)	469,398	2/2 昼食弁当代	15,600
追悼式現地カンパ	34,120	チェサー費用	35,134
交流会懇親会費	50,000	歓迎懇親会	51,089
収入計	553,518	2/3 お土産 (ゴマ油)	12,100
遺族招聘旅費 (船代)	220,000	レンタカー代	76,650
遺族宿泊費	94,265	ガソリン、高速道路代	17,933
遺族朝食代	16,000	洗濯代	4,840
2/1 夕食代	36,100	郵送費	28,120
2/2 西光寺寸志	10,000	雑費	8,456
		支出計	626,287
		収支決算	△72,769 円の赤字です。

弔 辞

こんにちは、私の名前は孫大鏡です。年齢は18歳で高校生です。こういう場所に出てきて語ることは慣れない為に震えています。この地において亡くなった、故「孫長平」は私の曾祖父であり、その為にこの地に参りました。

今年で66年目、お祖父さんの遺骨を未だに探されず、私の父は先祖に対し親不孝者だと常に話をしています。実際5年前に私の家族と共にこの地に参りましたが、幼い私は何も知ることが出来ませんでした。後に父から長生炭鉱について色々とお話してくれたので、その事柄を聞いてこの地に来て見ると、目の前の二つのピーヤがあまりにも冷たく、また悲しく目にうつります。

今日この地に集った皆さん、旧日本帝国は鉄砲と剣を持ってわが国の国民を脅かし、あの海の深いトンネルに閉じ込め、未だ遺骨も発掘できないままです。ところが、日本政府は吾ら先祖たちへの非人間的な行いに対し大々的な謝罪をしなければならないのに行わず、長生炭鉱は存在しなかったかのような扱いをしています。それは絶対に認められません。亡くなられた方たちは奴隷のごとく働かされ、悔しさの中で亡くなりました。万が一この事実がなくなり、世の中から消されてしまえば靈魂は誰が慰めを与えるのでしょうか。犠牲者とその子孫の恨みを解消して魂の安らぎを与えるべきです。

ここは韓国人だけでなく日本人の方々も来ています。私は少年ですが、良い事だけを歴史に記録すれば良いという考えは良くないと考えます。歴史の記録とは、歪んだ

権力者により左右されてはならないのです。これほど真実が嘘で作ったことにより隠蔽してしまえば、そういう歴史を基盤とする国家事態も嘘になってしまうからです。まさに正しい思いを持つ日本人であるならば、間違いを犯したとしても自分の国が正直で深い国であることを願うことでしょう。

厚き補償ごときでなくとも良いのです。ただ日本政府の真心の謝罪がなくても、過去にそういう事実があったことを認定するだけでも良いと思います。私たちのお父さん、あるいは祖父たちが悔しい死に至った事を認定すれば、それだけで彼らの恨みが消されるのではないかと思います。海の底にいらっしゃる先祖たち、66年前に起こった事柄は、あまりにも時間が過ぎた上に、人々はその時の出来事を忘れていきます。



冷たい海のピーヤを取り除かせないために、水非常を歴史に刻む会を16年前に発足して、今日に及んでいます。この活動がなければ先祖たちの靈魂はどうなった事でしょう。ただ1年に1度しかない今日の一日、私たち遺族は過ぎし日の記憶となくなった先祖たちに代わって、感謝の言葉を捧げます。また、こういう活動が毎年継続し私たちの家族を含め、遺族ちちが真心から笑える時が訪れますように、心より深くお祈りいたします。長々の弔辞を聞いてくださって感謝いたします。2008年 2月2日
長生炭鉱犠牲者大韓民国遺族会 孫大鏡

海に沈んだ長生炭鉱

7月26日(土)10時

宇部市西岐波「西光寺」に集ろう

知ってほしい！ 歴史の真実 今もなお 183 名の遺体は海の底！

66年前の2月3日早朝、宇部市西岐波の「長生炭鉱」は水非常（事故）を起こし水没しました。そのとき海底の坑道で働いていた183名もの命が犠牲になり、その7割ちかくが韓国・朝鮮の人々でした。今も遺骨はまったく引き上げられず、その海底に放置されつづけています。なぜ、水没の危険が言われていたのに危険を承知で操業したのか、なぜ、日本でこんなにも多くの韓国・朝鮮の人々が犠牲になったのか、なぜ、今も遺体は放置されたままなのか……。私たちは一人でも多くの皆様にこの事実を知っていただき、このような悲劇が二度と起きないようにとの願いをこめて、犠牲者の皆様の名前を刻んだ「追悼碑」の建立を心から願っています。どうぞ、ご家族で、知り合いの皆様と、フィールドワークにお出かけください。



紙芝居で楽しく学びます

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

代表 山口 武 信

事務局 宇部市常盤町1-1-9

TEL 0836 (21) 8003